

肥育豚への飼料用米給与試験

養豚経営の飼料のほとんどは輸入に依存しており、昨今の配合飼料価格は高止まりの状況が続いています。こうした中、飼料用米を積極的に利用することは、飼料自給率を高めると共に、飼料費の低減により養豚経営の安定に寄与します。

養豚研究室では、肥育後期(体重 70kg~出荷まで)の豚に飼料用米を 50%配合した飼料を給与し、発育成績や枝肉成績、豚肉の官能評価を実施しました。

表1 試験豚の発育成績

[給与した飼料]

粉碎区/粉碎した飼料用米+調製用飼料

酵素区/粉碎区+酵素剤+調製用飼料

丸粒区/飼料用玄米+調製用飼料

対照区/市販配合飼料(飼料用米なし)

	日平均増体量 (kg)	日平均飼料 給与量 (kg/頭・日)	飼料要求率
粉碎区	1.04±0.04	3.51±0.05 ^b	3.39±0.08 ^d
酵素区	1.00±0.07	3.36±0.00 ^b	3.45±0.30 ^d
丸粒区	0.88±0.03	3.93±0.02 ^c	4.46±0.15 ^e
対照区	0.86±0.04	3.03±0.08 ^a	3.54±0.15 ^d

・日平均増体量には違いはありませんでしたが、日平均飼料給与量と飼料要求率は丸

a-c, d vs e) 異符号間に有意差あり

粒区で大きくなりました(表1)。飼料用米を粉碎することで良好な成績が得られました。

表2 試験豚の枝肉成績

・枝肉成績は試験区間に違いはありませんでした(表2)。

	出荷体重 (kg)	枝肉重量 (kg)	歩留り (%)	背筋厚 (cm)
粉碎区	113.9±1.3	77.3±1.0	67.9±1.0	2.7±0.1
酵素区	112.1±3.0	75.5±2.4	67.3±0.8	2.6±0.2
丸粒区	108.8±2.6	72.3±1.9	66.4±0.4	2.3±0.1
対照区	105.7±2.2	71.3±1.6	67.4±0.4	2.4±0.3

表3 酵素区と対照区の豚肉の官能評価

・酵素区と対照区の豚肉を用いて官能評価を実施した結果、酵素区は対照区よりも「食感が好ましい」と評価されました(表3)。

評価項目	試験区	対照区	有意差
けもの臭い	2.9	3.0	NS
かみ切りやすい	4.4	4.3	NS
香りが好ましい	3.9	3.9	NS
味が好ましい	4.6	4.5	NS
食感が好ましい	4.6	4.3	*
脂肪が好ましい	4.0	3.9	NS
全体的に好ましい	4.5	4.3	NS

*) 有意差あり NS) 有意差なし

肥育豚に 50%と高い配合割合で飼料用米を給与する場合、飼料用米を粉碎して調製用飼料と混合することで、増体や飼料要求率が市販配合飼料と同等となりました。

また、飼料用米を給与した豚肉は、食感がよいという結果が得られました。

(養豚研究室)